

## 2025年度 後期 優秀チャペルアワーレポート

### 1. 心理学科学生

日時 10月28日(火)  
奨励 松浦 修 先生  
聖書 マタイによる福音書 11:28-30

ヨーゼフ・ラスカ先生と神戸女学院大学との関係や歴史について知る中で、私たちは長い歴史の中に存在しているということに気づきました。私たちが大切に過ごす1日1日や1回1回の行事は、長い将来に引き継がれ、次の世代へと受け継がれていきます。将来的に考えると、今この何気ない瞬間も振り返れば歴史を形づくる大切な時間へと変わります。私たちの思い出や努力が未来の人々の支えや誇りとなるように、これからの4年間の大学生活をこの神戸女学院大学で豊かに過ごしていきたいと思えます。

### 2. 生命環境学科学生

日時 10月13日(月)  
奨励 飯 謙 先生  
聖書 創世記 1:1-3

今日のチャペルアワーにはデフォレスト先生の姉の孫さんの夫婦がいらっしやっていました。先日女学院が創立150周年を迎え、よく飯先生が「おめでとうございます」といわれることが多いらしく、自分のことのように思えたそうです。「おめでとう」と語る側・受ける側は二重性を持っていて、女学院は人格として、使命を応援する側でもあり、体現する側でもあります。発信する人とされる人互いに助け合うことが必要で、特に今の自分、女学院は1人でここまできているのではなく誰かの助けがあってこそ今だと感謝しながら生活したいです。

### 3. 生命環境学科学生

日時 10月21日(火)  
奨励 大門 光歩 先生  
聖書 ヨハネによる福音書 5:1-9

私は、聖書のこの部分を読んだとき、「変わらない、ではなく信じて行動する」ことが大事、という教えを感じとったのですが、大門先生の「この奇跡はイエスと病人のまじわりで起きた」「イエスのように私の言葉一つで何かが変わるかも」という言葉を聞いて、病人の立場からではなくイエスの立場から読みとれる教えもあるのだと気づかされました。今まで、イエスを自分と重ねたことがなかったので、この考え方がかなり衝撃的でした。最初に感じとった教えに加え、大門先生の考える教えも現代でとても大切な教えなので、覚えて生活を送りたいです。

### 4. 心理学科学生

日時 10月14日(火)  
奨励 沢 知恵 氏 (歌手・ハンセン病療養所 音楽文化研究)  
聖書 ローマの信徒への手紙 12:15

「人生で人に関わらない時は、生まれてから死ぬまでない。だが同時に、人生の悩みの大半は人間関係だ。」という言葉がすごく印象的でした。小学生の頃に全く同じ話を先生からきいたことがあり本質だなと感じました。でも、人と関わるということは幸と不幸の両方があり、関わらなければ幸も感じられない。その話のモデルに出てきた、塔和子さんのお話も興味深かったです。詩を読んでみようと思います。

5. 生命環境学科学生

日時 1月9日(金)  
奨励 大澤 香 先生  
聖書 ヨナ書 2:1

今回の話では、ヨナの話が人によって様々に解釈され、演じられていることを知った。戯曲「ヨナ」は検閲と独裁の中にあつたルーマニアの人々に照らし合わせて、「閉じこめられた状況で、人は何を感じ、どう生きるのか」を表現していると知った。「ヨナは私であり、あなたである」という言葉が印象に残って、この物語が特定の時代だけでなく、今の私たちにも向けられているのだと思った。苦しい状況の中で、自分に何ができるのかを問いつづけて、光を見いだすところに魅力があると思った。